

## (8) 近畿



近畿地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、 \_ は下方に変更)。

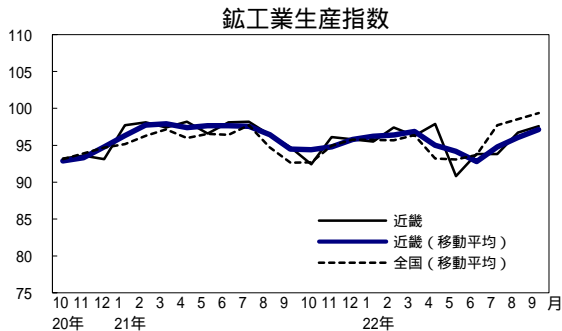
### 前回からの主要変更点

	前回(令和4年9月)	今回(令和4年11月)	
鉱工業生産	持ち直しに足踏みがみられる	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

7 - 9月期の鉱工業生産は、生産用機械や輸送機械が上昇したこと等により、前期比1.9%増となった。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。  
2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
化学	12.4	2.5	11.1	9.5	2.5	1.8
電気・情報通信機械	11.7	0.4	0.8	7.3	15.3	2.2
汎用・業務用機械	10.4	0.7	1.0	2.9	1.8	11.2
生産用機械	10.1	5.1	19.1	14.9	2.6	1.2
輸送機械	8.7	7.0	9.9	14.1	6.3	16.8
鉱工業	100.0	2.3	1.9	0.0	3.1	0.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 7 - 9月期、9月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

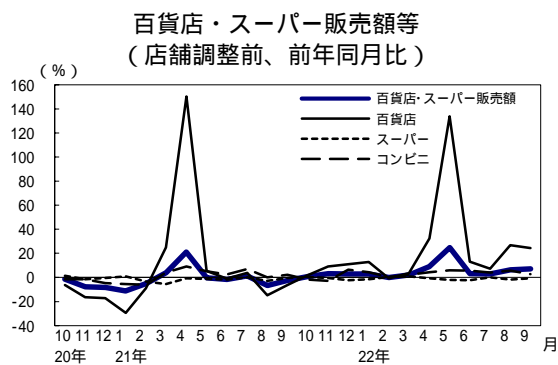
個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

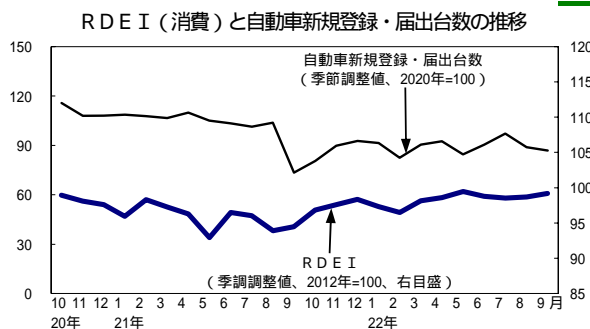
7 - 9月期は前期比0.1%減となった。月別にみると、7月は前月比0.3%減、8月は同0.2%増、9月は同0.5%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比5.4%増となった。月別にみると、7月は前年同月比2.8%増、8月は同6.5%増、9月は同7.3%増となった。



	2022年7-9月	2022年7月	8月	9月
RDEI(消費*1)	0.1	0.3	0.2	0.5
百貨店・スーパー(*2)	5.4	2.8	6.5	7.3
百貨店(*3)	18.0	7.4	26.8	24.4
スーパー(*3)	0.8	0.0	1.7	0.7
コンビニ(*3)	4.2	4.0	5.8	2.7
乗用車(*4)	0.6	6.9	12.5	22.0
(季節調整値)(*4)	2.1	7.5	8.6	2.2

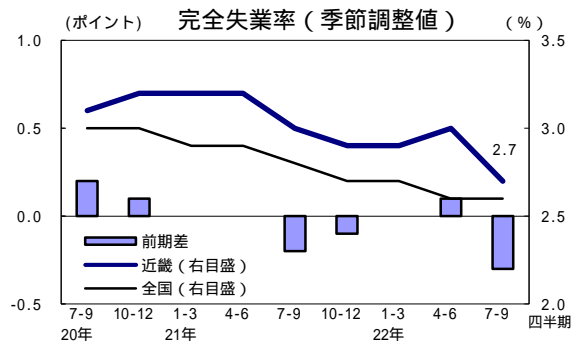
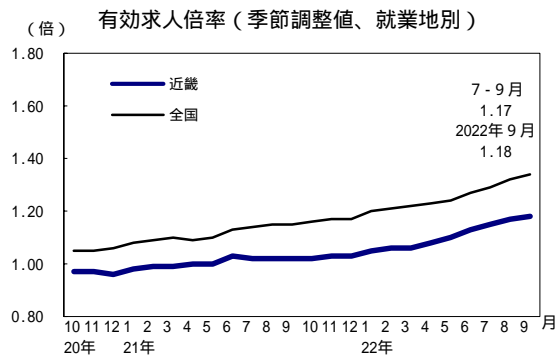


- (備考)
1. 季節調整済前期(月)比 (%)
  2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。
  3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。
  4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

## 3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年10月調査）景気判断理由の概要

8. 近畿

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・近隣でのイベントや地域の運動会などが再開され、休日には飲料やレジ横の商品など、1～2品の買物をする客が多く来店している（コンビニ）。
		○	・物産展などの大型催事が堅調に推移しているほか、入国制限の緩和によるインバウンド需要の復活など、消費に対する力強さが戻ってきたと感じる（百貨店）。
		▲	・生活必需品の値上げが多くなり、消費行動にブレーキが掛かっている（商店街）。
	企業 動向 関連	□	・消費者は価格に敏感であり、食品は1円の値動きで購買量に影響が出る。実際に、値上げとなった商品の動きは悪く、値上げされていないか、特売の商品は動いている。当社の商品でも、値上げをせずに販売している商品の動きは良い（食料品製造業）。
		▲	・原材料価格や加工賃の上昇分を販売価格に転嫁できず、利益が圧迫されている。販売もなかなか戻らず、非常に苦戦しており、売上は前年比で15%ダウンしている（繊維工業）。
雇用 関連	○	・受注量は引き続き微増となっている。以前と比べて、各社はやや攻めの姿勢になっていると感じる（出版・印刷・同関連産業）。	
	□	・売り手市場は続いているが、求人数の増加速度はピークよりもやや鈍化している（求人情報誌製作会社）。	
その他の特徴 コメント		○：タクシーが1台もない駅やホテルの前で、客が並んで待つ状況がみられるようになっている（タクシー運転手）。 ▲：仕入業者の価格改定に伴い、卸売先への価格転嫁を進めている。各飲食店もメニュー価格の変更を順次始めているなか、値上げ済みの取引先からは、来客数の減少といった声が出ている（一般小売店 [珈琲]）。	
先行き	家計 動向 関連	□	・人の動きは新型コロナウイルス感染症の発生前に戻りつつあるが、物価の上昇が厳しいため、今以上の回復は厳しい（スーパー）。
		○	・全国旅行支援の効果には限りがあるが、訪日旅行は今後も増え続け、円安の好影響も期待できる（都市型ホテル）。
	企業 動向 関連	□	・建設工事価格の上昇だけではなく、建設資材の納期が不確定であるため、工期が確定できずに苦労している。今後も、建設価格の高騰や建設資材の不確定な納期が問題になる（建設業）。
		▲	・利益を出すために、商品代金や送料の値上げを行ったため、客が減少する（輸送業）。
	雇用 関連	□	・円安の影響で利益がひっ迫している企業の間にも、利益の確保のために求人の条件を変える様子はみられない（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント		□：年末に向けての予約状況から、客は確保できそうであるが、物価の上昇に伴い、店の商品も少しずつ値上がりしているため、客単価のアップが見込みにくい（美容室）。 ×：過去に例のない円安のほか、半導体不足による家電や設備機器の在庫不足に加え、各商品の値上げが大きく影響し、耐久消費財の買い控えがしばらく続く（家電量販店）。	

(D I) 現状・先行き判断D Iの（近畿）推移（季節調整値）

